日本の科学者　Vol. 57　No.11　2022 年 11 月 1 日発行　付録

ＪＳＡ神奈川支部通信

No.11 November 2022 日本科学者会議神奈川支部 発行

事務局長：〒230-0071 横浜市鶴見区駒岡 3-30-G-408　飯岡ひろし
HP：https://jsa-kanagawa.jp、携帯電話 080-1987-0994、E-mail：iioka408(at)gmail.com

年会費 10800 円、院生・読者 5400 円　ゆうちょ銀行振替口座 0280-1-12774　日本科学者会議 神奈川支部

この号の見出し

◆24総学に参加して、科学と社会を論じよう　24総学実行委員会事務局長　左近拓男
◆安倍元首相の国葬に反対する共同声明　神奈川県大学人有志
◆自民党改憲案の危険な狙いー田中優子さん講演会の報告　後藤仁敏
◆市民と野党の共闘を進めようー神奈川革新懇が夏の活動交流会を開催　後藤仁敏
◆『「人新世」と唯物史観』本の一部の紹介　神奈川民間懇　北山宏之
◆JSA第58期第2回幹事会の報告　書記：椎名貴彦、中野貞彦

24 総学に参加して、科学と社会を論じよう

24 総学実行委員会事務局長 左近拓男

11 月 19 日から始まる 24 総学がいよいよ目前に迫りました。JSA にとって 24 総学は今年最大の研究企画です。私たち実行委員会はこの 3rd サーキュラーで 24 総学のプログラムを公表し、市民を含む広範な人々に参加を呼びかけます。

メインテーマは「新型コロナウイルス・気候危機下の科学と社会」で、「脱 炭素・脱原発・脱貧困」という副題を付けています。資本主義先進諸国の新自 由主義政策が増幅した社会矛盾にコロナ禍とロシアによるウクライナ侵攻が追 い打ちをかけ、市民が困難に喘いでいる時期に 24 総学は開催されます。上記テ ーマにはそうした困難の解決に科学の成果を生かし、市民とともに解決の方向 を考えようという思いが込められています。

主な企画としては、まず戦争と平和、コロナウイルスおよび気候危機を扱う3つ の特別報告。32 の分科会は多彩なテーマに分かれ、延べ 155 名の科学者、技術 者、学生、市民などが発表します。

JSAの総学の魅力は、①科学の到達点として最新の知見を得られる、②JSAの支部や地区の研究企画と比べてもテーマの幅が広い、③普段は聞けない人の 発表を聞ける、④市民を含む多様な階層の人たちと交流できるなどにあります。 今回もコロナ禍のため、やむを得ずオンラインで開催しますが、参加費無 料、交通・宿泊費不要、時間が節約でき、自宅から気軽に参加できるなどの利 点もあります。オンラインは初めてという人でも操作は意外と簡単ですし、実 行委員会がサポートします。会員はもちろん、非会員の研究者や一般市民の方 も歓迎します。皆さんお誘い合わせのうえ、ご参加下さい。

(詳細は本誌同封の3rd Circularをご覧ください)

安倍元首相国葬に反対する共同声明

神奈川県大学人有志

図１　記者会見する永山・山根両氏（神奈川新聞より）

政府は、閣議決定により今年9月27日に安倍元首相の国葬を実施しようとしています。

私たちは、この国葬に以下の理由から反対し、中止を求めます。

１）根拠法がなく、内閣の独断によるものである。国葬についての法律的根拠はありません。国民の代表たる国会が決定する法律に則る以外に行政府が独断で国葬のような重要な行為を行なうことはできません。法律の規定も国会の決議にもよらず、閣議決定のみによって政府が独断専行することは、三権分立と国民主権の原理、法治国家原理を侵すものです。

２）国民の良心の自由を侵害する。国葬は国家が、「国全体として」実施する儀式であり、主権者である国民がこの儀式という行為を担うことになります。特定の政治家の葬儀に政府が国民をまきこむことは、国民一人一人に、その政治家を礼賛し、その政策、思想に賛同する行為を強制することを意味し、個人の内心を強制動員することを意味します。しかも今回の国葬では、巨額の国家予算を用いることが想定されており、税を負担する国民に財政的にもこの行為を担わせるのであるから、なおさらです。

特に、大学を含む各種学校には、なんらかの弔意表明のための動員がなされ、児童、生徒、学生、教職員の内心の自由が脅かされる可能性があります。国家が個人の内心の領域に干渉し、それによって国民を動員することは、憲法第19 条によって保障されている良心の自由を侵害するものであり、決して許されません。

３）非民主主義的な歴史的背景。戦前の日本においては、国葬が勅令に基づいて行われていました。当該の勅令は現憲法のもとでは当然に無効ですが、現在の日本で国葬を行おうとする場合、歴史的背景を考えなくてはなりません。戦前においては、国葬は天皇を中心とする国家イデオロギーを儀礼を通じて浸透させる役割を果たしていたのであり、それ自体反民主主義的であり、また軍国主義につながるものでした。そうした背景を持つ国葬を復活させるべきではありません。

以上の理由により、わたしたちは、今回の国葬に反対し、特に神奈川にかかわりのある大学人として、県民のみなさんに、この国葬を認めないよう呼びかけます。

また、わたしたちは、神奈川県、県下の自治体、各種の学校において、国葬のための動員がおこなわれないよう求めます。

2022年9月26日

神奈川県大学人有志（神奈川県内在勤・在住、または元在勤在住の大学人の有志です。）

呼びかけ人：梅﨑透（フェリス女学院大学教授）、小野塚知二（東京大学特命教授）、金子文夫（横浜市立大学名誉教授）、久保新一（関東学院大学名誉教授）、小林 節（慶應義塾大学名誉教授）、小森田秋夫（東京大学・神奈川大学名誉教授）、中島三千男（神奈川大学名誉教授）、中西新太郎（横浜市立大学名誉教授）、永山茂樹（東海大学教授）、諸橋泰樹（フェリス女学院大学教授）、山根徹也（横浜市

立大学教授）、山本泰生（横浜国立大学教授）
賛同人：安達和志（神奈川大学教授）、五十嵐陽子（横浜市立大学インストラクター）、池谷尚美（横浜市立大学非常勤講師）、石川文也（立教大学教授）、一楽重雄（横浜市立大学名誉教授）、出雲雅志（神奈川大学教授）、井上惠美子（フェリス女学院大学）、池内了（総合研究大学院大学・名古屋大学名誉教授）、伊坂青司（神奈川大学名誉教授）、植木献(明治学院大学准教授)、上杉忍（横浜市立大学名誉教授）、上村雄彦（横浜市立大学教授）、江上幸子（フェリス女学院大学名誉教授）、近江吉明（専修大学名誉教授）、大門正克（横浜国立大学元副学長）、岡田 進（東京外国語大学名誉教授）、小ヶ谷千穂（フェリス女学院大学教授）、角山朋子（神奈川大学准教授）、勝俣誠（明治学院大学名誉教授）、木村 敬（神奈川大学教授）、倉持和雄（横浜市立大学名誉教授）、小馬 徹（神奈川大学名誉教授）、小金澤鋼一（東海大学元教授）、小寺春人（元鶴見大学教員）、後藤仁敏（鶴見大学名誉教授）、佐野賢治（神奈川大学名誉教授）、佐分利豊（元福井大学教員）、篠崎美生子（明治学院大学教授）、柴田弘捷（専修大学名誉教授）、島村 輝（フェリス女学院大学教授）、清水雅彦（日本体育大学教授）、清水雅大（帝京大学講師）、昌子住江（元関東学院大学教授）、菅原 正（神奈川大学理学部総合理学研究所特別所員・神奈川大学元教授）、鈴木重周（横浜国立大学非常勤講師）、高原孝生（明治学院大学教授）、田中桂子（明治学院大学教授）、玉井義浩（神奈川大学教授）、玉野 研一（横浜国立大学名誉教授）、田丸理砂（フェリス女学院大学教員）、辻 直人（和光大学教授）、辻子美保子（神奈川大学教授）、土田英三郎（東京藝術大学名誉教授）、角田暢夫（元・大妻女子大学教員）、勅使川原香世子（明治学院大学国際平和研究所研究員）、戸谷浩（明治学院大学教授）、鳥越輝昭（神奈川大学名誉教授）、長尾演雄（横浜市立大学名誉教授）、中谷崇（横浜市立大学准教授）、中塚次郎（フェリス女学院大学非常勤講師）、永岑三千輝（横浜市立大学名誉教授）、奈良本英佑（法政大学教授）、西山暁義（共立女子大学教授）、根本明宜（横浜市立大学准教授）、根本精司（東海大学名誉教授）、根森 健（元神奈川大学法科大学院特任教授）、長谷部美佳（明治学院大学准教授）、浜田盛久（海洋研究開発機構研究員）、林 博史（関東学院大学教授）、速水淑子（東京大学准教授）、原 良枝（神奈川大学国際日本学部特任教授）、針貝真理子（慶應義塾大学非常勤講師、東京大学准教授）、平野 昭（元慶應義塾大学文学部教授・静岡文化芸術大学名誉教授）、平山 恵（明治学院大学教授）、平山 昇（神奈川大学准教授）、廣川紀子（相模女子大学名誉教授）、福井直樹（上智大学大学院教授）、古川隆久（日本大学教授）、星野 潔（立正大学非常勤講師）、丸茂信行（元関東学院大学非常勤講師）、矢野久美子（フェリス女学院大学教授）、矢吹 晋（横浜市立大学名誉教授）、山根麻紀（神奈川大学准教授）、吉岡 拓（明治学院大学准教授）、饒平名尚子（フェリス女学院大学教授）、渡辺和人（明治大学非常勤講師）、渡辺信二（元フェリス女学院大学特任教授・立教大学名誉教授）、渡辺祐子（明治学院大学教授）

自民党改憲案の危険な狙いー田中優子さん講演会の報告

後藤仁敏

根岸線沿線にある５つの九条の会で構成する連絡会が、2022 年 9 月 30 日に杉田劇場で、田中優子さん講演会を開催、会場あふれる 300 人の参加者が集まりました。

講演に先だって映画「壊すな憲法、守ろう九条」（河野優司監督）が上映されました。映画「2887」の憲法部分です。友人の飯田洋さんが、2022 年 3 月に亡くなった河野の思い出と映画の解説をしました。

図１　講演する田中優子さん

田中さんは、スライドを使用して、「迫る改憲発議―改憲 4 項目という入り口」と題して、以下のような講演をしま

した。

改憲４項目は本格的な改憲の「入口」であり、その先の自民党改憲草案を読む必要がある。また、自民党の選挙を旧統一教会とその政治部門である「世界勝共連合」とその他関係諸組織の支えてきたことから、そのイデオロギーが大きな影響を与えている。それは緊急事態条項の新設すなわち政府の権限強化、軍事強化、家族第一主義で、改憲４項目にも改憲草案にも表れている。現憲法と自民党改憲案を読み比べてみましょう。

図２　発言する各九条の会の皆さん

前文は、現憲法では「人類普遍の原理」「全世界の国民」「普遍的」の語があるが、自民案では「天皇を戴く国家」「家族」「国家」「経済活動」「子孫に継承するため」となっている。

１条では、天皇は「象徴」で主権は国民にあるとされているが、自民案では「元首」とされており、帝国憲法を同じである。９条では、戦争放棄と戦力の不保持、交戦権を認めていなかったのが、「自衛権」を認め、「国防軍」の保持を明記している。

13 条では「個人」が「人」とされ、12 条、21 条の自由には「公益および公の秩序」に反しては認めないとしている。97 条の基本的人権の由来特質は削除された。98 条、99 条には緊急事態の宣言が新設され、政府の権限が強化されている。

99 条で天皇国務大臣，国会議員、裁判官その他の公務員に憲法尊重義務を課せていたが、自民案 102 条では国民に尊重義務を命じている。

江戸時代は、家に縛られた身分制社会であったが、家でない場所として、連、会、社などが作られ、そこで複数のわたし（アバター）が才能を発揮し、江戸文化を創造した。明治政府は人々を「天皇の臣民」としたが、戦後は「個人」の人権に基づく「自由」を生き抜く時代となった。自民案は「個人」を顔のない「人」にしようとしている。

24 条では勝共連合の文言と同じ家族の尊重が入り、「家族は助け合わなければならない」としている。

日本は歴史上ずっと夫婦別姓であったが、1898 年に明治政府がドイツにならって夫婦同姓にした。1006 年に法制審議会で選択的夫婦別姓制度が提言されたが、いまだに実現されていないのは、旧統一協会の思想が影響しているのではないか。

江戸時代とは、1560 年以来 270 年間も内戦も国外との戦争も回避した時代で、循環システムの整備で持続可能社会を作り上げた。朝鮮通信使などの周辺諸国との外交関係、ヨーロッパとの通商関係を樹立し、世界中の情報を得ることで輸入依存から国産技術へ転換し、大量の職人を輩出し、「ものづくり日本」を創造した時代であった。

今こそ、江戸時代に学び、自立した日本をめざすべきだ。戦争が富を生み出すという人が、憲法改悪をしようとしている。よく見て、よく判断して、自由と権利を守るための不断の努力をしましょう。

講演後、大船九条の会の仲築間卓蔵さん、栄区九条の会の日隈好恵さん、港南台９条の会の朝日潤太郎さん、洋光台九条の会の田中俊充さん、森九条の会の土志田栄子さんが、各会の活動を紹介しました。最後に私が主催者を代表して挨拶し、「今日の田中さんのお話を胸にきざみ、憲法改悪反対の運動をさらに広く大きく進めよう」と呼びかけました。

なお、この集会は以下の url で動画を見ることができます。

https://iwj.co.jp/wj/open/archives/511184

市民と野党の共闘を進めようー神奈川革新懇が夏の活動交流会を開催

後藤仁敏

2022 年 9 月 3 日、神奈川革新懇が夏の活動交流会を藤沢市民会館で開催し、会場に 50 名がオンラインで 5 名が参加しました。

はじめに、代表世話人の岸靖之さんが交流会の目的と意義について開会挨拶しました。

図１　中原革新懇のしょめい隊

ついで、代表世話人で共産党県委員長の田母神悟さんが「参院選での共闘の結果と今後の展望」について、次のように報告しました。参院選ではあさか候補は日本共産党と市民の共同候補として戦ったこと、選挙後に統一協会と自民党との癒着ぶりが明らかになり、安倍国葬問題とともに、岸田政権の支持率を大きく下げた。市民と野党の共闘を再構築する大きな展望が開けている。

代表世話人の田中光雄さんは世話人会を代表して春の活動交流会以降の活動を総括し、今後の活動について問題提起を行ないました。

横浜市従労組委員長の水野博さんは「横浜の山中市政のもとでの市民要求実現の運動について報告しました。中原革新懇のしょめい隊は、5 人のメンバーで、音楽を楽しみながら 357 回も署名を集める行動をしている様子を報告しました（図 1）。

相模みどり革新の会の戸田定彦さんは、「逆流とのたたかい、全国紙の増や会の運営」について発言しました。神奈川憲法共同センターの住谷和典さんは、改憲反対全国署名や全国と神奈川での共同行動、要求運動について報告しました。

川崎区革新懇事務局長の鍛冶みちさんと、虹色＠ピースフレンズの白井幸子さんは、それぞれの素晴らしい活動について文書発言をしました。

その後、zoom をふくむ 6 つの分散会に分かれて、参院選結果と活動交流、市民と野党の共闘再構築、革新懇づくりについて話し合いました。

「人新世」と唯物史観（友寄英隆著）　本の一部の紹介

ー〈理論・イデオロギー活動の立ち遅れ〉問題について

神奈川民間懇　北山宏之

私が「経済」誌の編集長をやっていたころから、編集者としての責任も感じながら、階級闘争の３分野（政治・経済・イデオロギー）のなかで、とりわけ理論・イデオロギー活動の分野で、日本の革新勢力、マルクス主義の勢力は、立ち遅れているのではないかという問題がある。

① 階級闘争の３つの分野の中での相対的な立ち遅れ

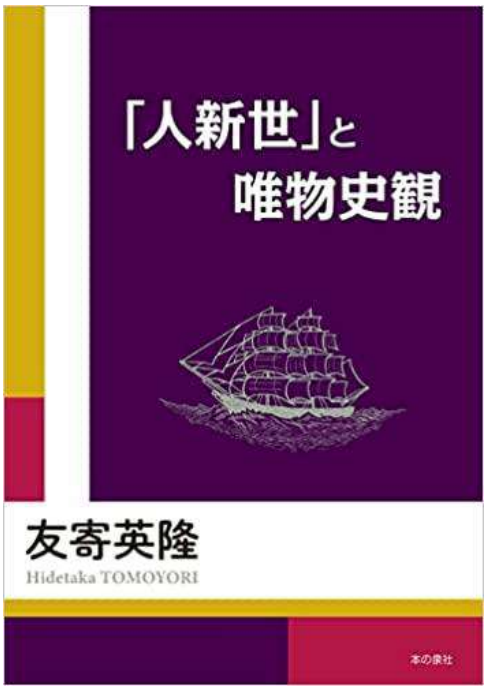
全体的に３つの分野がかみ合わないと、運動は発展しない。たとえば政治闘争でいうと、地域では活動家のみなさんが高齢化して大変困難な状況になっているが一生懸命頑張っている。しかし、若い人が少ないために、なかなか思うように前進できないという状況がある。特に若い人たちを獲得するには、いつの時代も理論的に魅力がないと前進しない。

私が大学に入ったのは1960年、その頃はマルクス主義陣営の理論的な魅力、知的権威が非常にあった。その頃は、世界と日本で起こってくるさまざまな事件、現象にたいして、マルクス主義の側から歴史的、理論的に深く解明して、さまざまな論文が発表されていた。

たとえば、1961年ケネディ大統領就任、1963年暗殺された後、世界的にケネディ美化論が広がった。1964年3月10日、「ケネディとアメリカ帝国主義」という長い政治評論が赤旗に4ページにわたって掲載された。私は学生だったが、赤線を引いて繰り返し読み、非常に知的刺激を受けながら討論したことを思い出す。

このように現実をマルクス主義の立場から解明した鋭い時事分析に強く引き寄せられたという記憶がある。

ところが1990年代のころから、このようなマルクス主義の理論的魅力、とくに現実解明の魅力がだんだん弱まってきたように思える。



② 理論的立ち遅れの客観的原因と主体的原因

客観的原因として、世界史的に20世紀初頭のレーニン死後、社会主義運動の理論的な混迷がある。旧ソ連時代の理論的なゆがみがあり、さらに20世紀末にソ連・東欧諸国が崩壊した後は、国際的に、とくにヨーロッパでは、その影響が大きかった。

こうした客観的な原因は簡単には取り除けない。しかし日本の場合は、そういう中でも戦前から1960，70年代くらいまでは、理論的に非常に優れた達成がいろいろあったように思う。

ところが20世紀末ころから21世紀にかけて、日本でも理論の創造的発展のための知的学問的活動の立ち遅れが目立つようになってきた。

主体的原因の特徴として、

（その１）理論といえばマルクスの解釈、「資本論」の理論的研究で現代的課題がすべて解けるかのような傾向があった。21世紀の現実を解明することを理論活動の中心にすえて、そのためにこそマルクスなり「資本論」なりを研究することが必要なのではないか。

（その２）現代のブルジョア・イデオロギーの研究と批判も必要。「資本論」は副題が「経済学批判」であることからも明らかなように、マルクス主義の理論活動はブルジョア・イデオロギーとの理論闘争でもあるわけだ。

しかし、われわれは、現代のブルジョア・イデオロギーの状況について、必ずしも敏感ではない、むしろ鈍感になっているという感じがする。

（その３）さらに革新的理論陣営の内部での建設的な討論、論争も最近はあまり行なわれなくなっている。これらが不足していることも、理論の創造的な発展を遅らせている要因になっていると思う。

感想:「経済」の元編集長ならではの説得力ある内容だと感じた。ベストセラーとなっている『「人新世」の資本論』（斎藤幸平著）についてマルクス解釈にたいする批判的論評もある。今後の課題としたい。

（友寄英隆著『「人新世」と唯物史観』1999 円（税込み）、本の泉社、2022 年 4 月）

JSA 第 58 期第 2 回幹事会の報告

書記：椎名貴彦、中野貞彦

2022 年 7 月 24 日の 10:00～16:20 にオンラインで、平野研、小笠原卓、伊藤宏之、山崎誠、中野貞彦、多羅尾光徳、大竹美登利(代表幹事)、増澤誠一、後藤仁敏、三木敦朗、立石雅昭（代表幹事)、山本富士夫（代表幹事)、小野一、水谷洋一、椎名貴彦、中嶋哲彦、河野仁、長野八久、畑明郎、竹中寛治、角田鉄人、西原誠司、亀山統一、増山（大和田代理)、廣森（笹倉代理・午前)、鄭　幸子（チョン・ヘンジャ）（笹倉代理・午後）の参加で、58 期第 2 回幹事会が開かれました。欠席は葛谷泰慣で、代理含め出席者は 26 人中 25 人でした。

１．開会宣言

・増澤（仮議長）：幹事 24 人が出席、幹事会が成立しています。代表幹事の開会挨拶をお願いします。

開会挨拶：立石雅昭（代表幹事）：おはようございます。第 2 回幹事会の開会に当たり、一言、ご挨拶を申し上げます。

今日、日本の科学技術、ならびに日本の平和と民主主義、さらには国民の生活・暮らしに関わって大きな転換がもたらされようとしています。何より、先の第 2 次世界大戦に対する痛恨の反省から生まれた日本国憲法を変えようとする翼賛体制が強まっています。ロシアのウクライナ侵略、安倍元首相の銃撃事件を機に強まっている国内外の平和と民主主義をめぐる動きは、私たち科学者の役割、貢献をこそ求めていると思います。私たちはさまざまな分野の研究者を糾合している科学者集団として、国民各層の思いや願いを踏まえつつ、事態を多面的に分析し、展望を発信しなければなりません。

端的に言えば、昨年総会での『新型コロナ』について、今年の総会での『ロシアのウクライナ侵略』についての科学者会議としての『見解・声明』が流れたことに衝撃を受けました。それぞれの事態・事象を科学のさまざまな視点から見れば､意見を異にすることがある意味当然ではあるでしょう｡しかし、重要な課題であればあるほど、科学者集団として熟議を重ねて、まとめ上げていくことが必要です。そのための仕組み作りも急がれるのではないかと改めて思っています。

本日の幹事会も当面するさまざまな組織・運営に関する課題が提案審議されます。幹事各位の積極的な意見交換の場となり、科学者会議の一層の前進に寄与する会議になることを願っています。よろしくお願いします。開会のご挨拶とさせていただきます。

議長・書記の選出、議長・書記の挨拶：議長に立石（前半)、後藤（後半)、書記に中野、椎名を選出し、それぞれ挨拶をした。

２．議事日程案の提案・採決

中嶋事務局長が議事日程を提案し、了承された。

３．自己紹介：

平野、伊藤、山﨑、多羅尾、増澤、後藤、三木、立石、山本、小野、水谷、椎名、中嶋、河野、長野、畑、竹中、廣森（笹倉代理)、増山（大和田代理)、角田、西原、亀山が自己紹介。事務局員の上野が自己紹介した。

４．事務局報告（増澤が資料にもとづき提案説明）

事務局日誌：5 月大会以降の活動を紹介した。会員数と会費納入状況を説明した。現在会員 2750、読者 114，院生 95，特別 101 である。滞納の状況も含め、事務局で毎月共有している。月別収支状況表：毎月 200 万円前後入金あり、それで運営している、ブランクの欄は本日承認後に埋める。以上の件、承認された。

５．機関会議日程（案）（増澤が提案説明）

幹事会の日程案：11 月の上中下旬かを早めに知らせてほしい、との意見があり、10 月に日程調整を行う、と回答。24 総学がある土、日は避けるように、の意見あり。承認された。

６．58 期第 1 回幹事会議事要録（増澤が資料にもとづき提案説明）

第 1 回幹事会議事要録：承認された。

７．第 53 回定期大会について（増澤が資料にもとづき提案説明）

大会の概要（『日本の科学者』9 月号に掲載）：ほぼ読み上げて説明、宮城支部からのウクライナに関する大会決議は、廃案になった。第 53 回定期大会決定：すでにみなさんに送付している.

竹中：起草委員会で議論する時間が十分あったなら、違った結果になったのでは、と思う。今後、検討を願う。

増澤：起草委員会は大会 1 日目に選出されたので、2 日目まで 2 週間あった。

中嶋：今回は時間の問題ではなく、内容の問題と思う。宮城支部での議論が十分に行われていたのか、という背景もある。起草委員会の任務は文言整理が主であるのか、あり方を検討する必要もあるかと思う。

立石：大会の短い時間のなかで内容を議論してまとめるには工夫がいる。

小野：十分に時間をかけて議論をする必要があり、国際部として 24 総学にウクライナ問題の分科会を設置した。宮城支部にも声をかけている。

議長（立石）：次に移ります。

第 53 回定期大会第 1 日議事要録、第 53 回定期大会第 2 日議事要録：以上 2 点増澤が説明。大会アンケート：山﨑が説明した。26 人が回答、今後に生かしてほしい。以上について承認された。

８．58 期運営体制・任務分担（山﨑組織部長が説明して提案）

幹事役割分担表：幹事 26 人、代表幹事にも分担してもらった、部会のオンラインでの会議も行ってください。葛谷さんには若手に入ってもらう。各部の活動方針にもとづいて活動を進めてください。

竹中：私は国際部に入っているが、適切な人がさらに入ってほしい。社会的活動部を望むが、事務局で考えてほしい。

椎名：地区担当が、水谷から椎名（岐阜）に変わる。

西原：支部は鹿児島です、訂正を。

大竹：大学問題委員会になっていますが、学術体制部がいいのかな？と思う。

議長：以上の希望を組織部・事務局で検討してください。以上、承認された。

・亀山：起草委員会で廃案にならないように、今回も長時間議論した。大きな改変をしたのは、廃案にならないように努力した結果。今回は、大会議論で結果的にまとまらずに廃案になった。起草委員会の役割を徹底してほしい。

議長：総合討論で議論しましょう。

９．58 期活動方針の具体化

（１）『日本の科学者』

機関誌費予算細目案に：増澤が説明し提案した。出版社からの単価￥142 で昨年度までは 4150 部買い取りしていたが、会員減により 2022 年度は 3800 部に減らす。リアルな編集委員会を 1 回行うのに 45 万円計上。

山﨑：編集実務者への謝金、編集長に負担がかかっている。長野編集長にも支払えるよう規定を作っておくことを提案。

中嶋：編集実務については時間単価をだすのは難しい、委託の形で（年、月）払うようにしたい、そのような趣旨で予算を組んだ。

増澤：JJS を継続出版できるように、この額では見合う支払いには達しないと思うが、今のところ支払える額を計上した。

平野：北海道支部では JJS 配送作業が大きな負担となっている。配布が容易になるよう、PDF 化を検討してほしい。

長野：冊子体の販売は JSA の大きな財源となる（￥800 で販売）。PDF にするとそれができなくなる。PDF 化するかどうかは組織の問題として議論すべき。

山﨑：7 月の事務局ニュースに提起している、地区担当の幹事の意見も聞いて検討する。

中嶋：冊子を pdf 化して配布か、冊子を止めて pdf だけにするのか？

平野：冊子をやめるということではない。

機関誌費予算細目案を承認した。

（２）学術体制

問題別委員会費予算案の提案・承認、今後の進め方について

多羅尾：問題別委員会予算案について説明、提案した。前年と同じ。オンラインの活動で予算を使っていない部もある、女性委員会はシンポを行った。問題別委員会費予算案を承認した。

問題別委員会（委員の提案・承認）

山﨑：葛谷幹事（院生会員、若手研究者問題担当）は若手研究者問題委員会にどう関わるのかを加賀美委員長に確認する必要がある。

多羅尾：オブザーバー参加は可能。

増澤：若手研究者問題は若い教員、葛谷さんは院生。

議長：どう考えたらいいのか？大会で承認されている。

増澤：加賀美さんの方で、院生の運動とどうかかわるか？

多羅尾：意向を伺うのがよい。

議長：以上を踏まえて了承された。

（３）組織活動

組織活動費細目予算案の提案・承認、会員拡大，退会防止，組織強化、困難支部対策，支部活動支援、地区活動、女性会員の拡大と活動支援、若手会員の拡大と活動支援

山崎：会員名簿について全国事務局で管理するのは困難。退会者の滞納会費についてアンケートを取りたい。

組織活動費細目予算案を承認した。「今幹事会で確認いただきたい事項」を承認した。

地区会議経費：地区会議会場費は上限 1 回 10,000 円（これまでと同様）。オンライン開催の際に経費負担がある場合は対応する（Zoom 契約料など：1 月 1600 円）。地区担当幹事などが困難支部の状況の把握活動に要する費用も「地区会議経費」で手当てする。地区会議 1 回は、対面での開催を模索する。関連して、困難支部対策費は全国事務局が主に使用する。

機動的経費：支部・地区活動などの広報（記者レクなど）に関わる隣接支部からの派遣旅費などにも対応する（56 期は若手夏の学校韓国行きに 2 万円使用）。

「入会のしおり」を更新する。

山崎：機動的経費の使用予定について、今年は「夏の学校」が開催される予定でそこで使用される見込みである。

山崎：困難支部対策として、第 3 回幹事会までに各地区、支部の実情を全国事務局へ伝えてほしい。

廣森：女性会員の活動について、総学分科会、シンポジウムなどを実施する。議論はこれから（大竹代表幹事から補足発言）。

（４）社会的活動

予算案、内訳の提案・承認、加盟，参加している団体の確認、科学者集会報告、社会的情勢をめぐる共同行動など

三木：予算案について、オンラインがほとんどであるため、交通費は計上していない。

立石：憲法に関わる団体には加盟していないのか？

三木：部員が参加しているが加盟費は払っていない場合がある。例えば、9 条科学者の会は分担金はなく、カンパで活動している。JSA 東京支部事務所を使用している。

予算案を承認した。

（５）国際部

小野：予算細目について、INES について連絡が滞っているので 0 で計上した。

小野：国際部の活動について。年に 4 回の英文誌を発行。直近は 7 月 25 日発行する。科学者つうしんや諸決議の英訳が主。科学者つうしんの英訳を執筆者自身にお願いしており、承諾してくれた執筆者が出た。ウクライナ問題で総学分科会を設置。

予算案を承認した。

昼食休憩に入る前に、水谷幹事から林会員（静岡支部）の訃報が伝えられた。
チャット：先ほど、当支部会員の林弘文（元・静岡大学，物理学）の訃報が届きました。林弘文先生は『日本の科学者』編集委員長を務められたほか、静岡支部の代表幹事も務められ、日本科学者会議の活動に多大な功績をあげられ方です。幹事のみなさまの中には、直接ご面識等のある方も多いかと思います。静岡支部としては、現在、谷代表幹事、石原事務局長を中心に支部としての今後の対応を検討中ですが、まずはみなさまにご一報させていただく次第です。
＜昼食休憩＞
（６）総務財政
財政状況、事務局職員体制
増澤：すでに大会で承認されているので、確認のみ。オンライン会議の利用を考慮。事務局職員の業務の説明。
亀山：すでに決まったことが入っていないのでは。決まったことは載せるべきでは。
増澤：幹事会で各部の細目決まったら入れようと考えていた。
中嶋：負担軽減のため一度の作業にまとめたい。
（７）情報通信室
増澤：室員を募集している。メーリングリストの運用。
河野：情報伝達の漏れを防ぐために、研究企画部のメーリングリストの作成について依頼している。
亀山：mail と zenkoku の使い分けを事務局で検討し、各支部に周知してほしい。
＜チャットより＞
小野 ： なぜ情報通信「室」？重要性に鑑みて情報通信「部」に格上げする可能性はないのか。
亀山: 小野様　部を増やすと部長を増やさなければならず、事務局次長の定員、事務局推薦幹事の上限から、これ以上の部は作れないという認識が井原事務局長時代の議論だったと思います。もっとも、編集委員長と出版部長が兼任している例もあるので、情報通信室についてもやり方はあると思います。この問題は、先ほどの JJS についての長野さんの発言同様、JSA 活動の IT 化をどれだけ進めるかという組織の問題だと思いました。
河野 ： 情報通信室は今のところ事務局の指示で動いていると思います。しかし、情報通信室独自の判断で動くことも必要だと思います。権限と責任を増やすという意味です。
亀山 ： 情報通信室についての先の私の文書発言は、室長・室員の体制拡充なしに部に名前を変えるだけだと、負担が負いきれないという従来の議論の立場からいたしました。情報通信室が独立した判断行動をしたいことがあるということでしたら、具体的にどのようなものか幹事会に挙げて頂いて、それがうまく実現できるよう情報通信室規程の改正に向けた議論を行えばよろしいかと思います。
（８）研究活動
研究活動費細目予算配分案の提案・承認、研究委員会（委員の提案・承認）、研究助成委員会について、24 総学（実行委員長）、今後の進め方について
河野：研究活動費細目予算配分案について、全国災害問題委員会が０なのは申請がなく、再三確認したが、回答がなかったため。会計年度を勘案し、研究助成の報告などをこれまでより１ヶ月前倒しにする。
研究活動費細目予算配分案を承認した。
畑：24 総学は、32 分科会が設定された。分科会発表者を 7 月末締切で募集しているので、応募をお願いする。
これについて、分科会の日程が公表されて日が浅いとの指摘があり、検討の結果、分科会発表の締め切りは 8 月 31 日にすることとした。
亀山：総学の分科会日程を 8 月 10 日発送物に含めて広く会員に知らせてほしい。紙媒体に依存している会員に配慮する必要がある。
畑：付録として折り込みます。
＜議長が後藤に交代＞
１０．審議事項

（１）幹事会常置の起草委員会について

増澤：57 期から設置している。6 人で、地区持ち回りで選出してもらう。幹事以外の専門家にも入ってもらうことも可能にしている。57 期には、決議案はなかった。

亀山：起草委員選出の期限は？　安倍元首相の国葬問題、NPT 再検討会議に関して声明をだした方がいいと思う。

増澤：選出は 8 月第 1 週くらいにお願いしたい。

議長：国葬問題など必要なら案をだしてください。

起草委員会について承認された。

（２）事務局長・事務局員選考ワーキンググループについて

増澤：幹事会の下に各地区から選出したメンバーで構成する。58 期役員の多羅尾（2 期 4 年)、増澤（2 期 4 年)、中嶋（1 期 2 年)、河野（3 年)、長野(6 年)の方々が退任交代を申し出ている。来年 4 月下旬予定の第 4 回幹事会までに、候補者を決めて欲しい。二年目を迎えている役員についても意向を聞いてほしい。WG の委員は地区から 1 人、ただし関東甲信越は 2 人をお願いしている。

亀山；代表幹事については、WG 名に含まれていないが、代表幹事 3 人についても意向確認が必要ではないか。

増澤：代表幹事も含めて選考・推薦を行うことになります。

竹中：WG のタイトルに「代表幹事」をいれたらどうか。

大竹：私の後任も選んでいただきたい。

増澤：代表幹事も含み、WG 名をどうするか事務局で検討し、ML で流します。

亀山：幹事はだれでも立候補できるので、並行した作業になる。

WG について承認された。

（３）事務所移転準備委員会について

増澤：事務所の契約更新は 3 年、会員減少につき固定費を減らしたい。2020 年から積み立てた 400 万円は退去のときの費用、2022 年は引越費用として 200 万円を予算に計上している。移転準備委員会を立ち上げる。東京支部からも、また今までの役員経験者にもお願いしたい。

亀山：JSA の貴重な資料をどう保管するか電子化するか、移転準備委員会のなかでもいいが、委員会を立ち上げることを検討してほしい。科学史や運動史の専門家に加わってもらうようにして。

議長：3 年契約はいつまでか？

増澤：2025 年 1 月まで。それまでに移転を行いたい。

議長；契約更新したばかりですね。では委員会を設けることについて承認でいいですね。

増澤：亀山さんの提案は十分検討したい。

移転準備委員会の提案について承認された。

（４）バーチャル大学院構想について

増澤：大会で中塚さん（愛知支部）から提案され、検討に値するという意見もあり、提案します。パワポ資料 31 を見てください。JSA 会員なら誰でも参加できる。オンライン、授業料は無料、希望者がいた場合、マッチした指導者がいるか、課題もある。まず、検討グループを作ることを提案する。

議長：大変な作業になるが、実現すれば魅力的な大学院になる。ワーキンググループの立ち上げはどのように？

増澤：研究企画部長、組織部長などを中心に考えている。

議長：関心ある方は増澤さんへ。若い人、市民の方が参加すれば、会員拡大につながる。

１１．総合討論

増澤；チャットの意見、四国の角田さんから「起草委員も WG もやるのか？」の質問があり、ぜひお願いしたい。「情報通信室　もう少し重視を」という意見もあります。

亀山：起草委員会は幹事、選考委員会は幹事以外でもいいのではないか。

増澤：そのとおりです。

山﨑:幹事のみなさんが支部とどれだけ連携していくか､地区の活動などについても経験交流をしたい。

中野：理研の雇い止め問題、重要な問題であり。JSA としてどう取り組むか、議論してほしい。
後藤：神奈川支部で HP を作ったので紹介させてください。新事務局長が障害者のグループに依頼して作りました。（画面共有）歴史、支部つうしん、声明など載せている。
増澤：経費はどれくらいですか？
後藤：15 万くらいか、と思います。それプラス年間の費用。
小野；HP について、更新はどうしているのか？外への発信だけでなく、内部向けもある。実態は？支部通信をアップすれば、今全国事務局から支部通信を配信しているが、web に載せれば省力化になる。
後藤：支部通信は月間で発行なので、更新は毎月。会員同志の交流の場もある。全国事務局から、各支部の支部通信を送って貰えるのは助かる。
中野：東京支部は支部通信を毎月発行、紙媒体は会員に送り、全国事務局から pdf を配信して貰っています。女性会員、個人会員のニュースも発行している。
亀山：支部幹事会の報告や院生会員の報告など、HP にアップするのは個人情報などの問題でアップできないものもある。その辺りを検討していただければ。
山﨑：支部通信を発行しているのは半分くらいの支部、それぞれの支部の動きを反映して、交流できればと思う。幹事のみなさんが支部通信に関心をもっていただければ。理研の問題は千葉の東崎さんからご意見をもらったり、労組に電話したりした。学術会議が動きそうだ、ということでみなさんにお知らせした。JSA で何ができるか、考えなければと思う。支部で要求などつかんでいただければ、と思う。
後藤：浜田さんが Nature からインタビューされ、田村議員（共産党）が取り上げた。HP の更新は、障害者のグループに依頼している。

１２．総合討論（つづき）

・理研や東北大での大量雇い止め問題について、Nature にも記事。
増澤：ホームページに関して。情報通信室が講師で昨年度ホームページ作成講習会を実施。参加した高知支部は未だホームページを作成していない。外向けに公開していいものとそうでないものの区分けが難しそう。
今後の JJS のあり方、JSA の組織のあり方について
＜チャットより＞
支部での会誌の発送業務・支部つうしん等の発行形態、支部の事務所や役員・事務局員の態勢、事務局・編集委員会の編集態勢、事務局の事務所で必要な編集・発送業務、全国会費・支部会費の設定、会員拡大での JSA のセールスポイントなどは、すべて、『日本の科学者』を紙媒体で出版し、支部から発送するという今の形態を維持するのか変えていくのかで決定的に変わっていきます。JSA の組織の在り方の今後を考える上で、『日本の科学者』の発行発送と JSA の組織強化というテーマで集中討議をすることを提案します。こうしたテーマで地区会議・支部の会議で議論してもらった上で臨時幹事会を開く等してはいかがでしょうか。
亀山：JJS が活動の中心になる。全国事務局の事務所も編集作業で必要。JJS をどうするかが今後の活動にとって重要。今期（から）の課題にしてはどうか。
中嶋：JJS の紙媒体は維持しつつ、発行して２ヶ月後くらいには電子媒体（J-stage など）で公開するのはどうか。JJS や JSA を知ってもらうのに有効では。
平野：北海道支部から出した意見（PDF 化）は配送作業の軽減のため。このままでは事務所が維持できず、配送作業ができなくなる。配送作業をなくすための手段としての PDF 化を提案した。
河野：いろいろな学会で遅くても１年後には論文を公開している。JSA もオープンにしていく必要があると思う。実際上、発行から１年後には売れることはない。本の泉社との契約の問題では。
後藤：JJS の PDF 化、公開について、後で長野さん（午前のみ出席）に伝えてほしい。
大竹：公開することで掲載論文が引用される。引用されるかどうかが雑誌の価値を高める。発送について、大変な場合には別の手段（出版社から、全国事務局から）を考えるべき。全国事務局から発送すると支部独自の郵送物を入れられないデメリットも。
茨城支部では業者に依頼して発送。

山崎：北海道支部の詳しい状況を知らせてほしい。同じ規模の他支部の実態も踏まえて検討したい。
平野：北海道支部はカバーする広さが他支部とは大きく異なる。
河野：発送をどうするか。柔軟に対応したらどうか。実情に応じて支部からでも全国事務局からでも発送できるようにできないか。
小笠原：オンラインよりも対面の方がきちんと議論できる。配送方法について、宮城支部では大学での学内便、あるいは個人へ郵送。若手が忙しいので、退職組が作業を担当。支部ニュースで交流。
亀山：困難支部の扱いについて幹事会の共通認識にしてほしい。熊本支部は地区会議が事務を担っている。再建途上にあるけど自力では人を出せない支部、会費を払えていない支部について、支援が必要。困難といっても多様。幹事会として整理して対応策を地区に投げかける必要がある。
増澤：個別に事情をつかむことが必要だけど、近隣の方でないとわからない。手付かずが多い。全国事務局としてどうしたら良いか、というのがある。
山崎：和歌山支部や秋田支部などの状況を把握する努力している。地区内で支部同士の交流ができないか。一度は対面での地区会議をしてほしい。２つの支部で一つの事務局などの対応も考える。地区会議で議論をしてほしい。
亀山：全国事務局はよく対応している。幹事会としてどう認識するか。
増澤：JSA は創立時各都道府県毎に設立されていった経緯から、各支部の活動が基本となっている。高校野球で連合チームがあるように、JSA も連合支部というやり方もあるのでは。

＜チャットより＞

そもそも県単位で会誌発送・会費徴収する「支部」という単位は死守すべきものなのでしょうか。発生する「困難支部」をそのつど地区で改善していくのではモグラ叩きです。必要とするところにだけ支部があればよいようにも思います。支部という仕組みをコストをかけて維持する、JSA にとっての意義とは何なのでしょうか。
畑：和歌山支部について事務局長や会員に連絡を取ろうとしたけどうまくいかなかった。
後藤：地団研は支部からの発送ではなく、発送や会費徴収を全国で一本化した。
鄭　幸子：笹倉幹事の代理。女性研究者委員会について発言。
増山（山口）：全国直属の個人会員という制度もあっていいのでは（異動多い若手研究者には特に）。
西原（鹿児島）：鹿児島支部の状況を紹介。事務局長が鹿児島大以外から選出されたのは初めて。

１３．閉会

閉会挨拶
山本代表幹事：本日は、長時間にわたるご審議、まことにお疲れ様でした。ここで、JSA の持続的発展のために、私が日頃思っている課題を申し上げます。まず、日本科学者会議会則の前文の一部を読み上げてみます。「科学を人類に役立て正しく発展させていくことは，わたしたち科学に携わる者の共通の任務です．わたしたちは，日本の科学の進歩と平和・独立・民主主義・人びとの生活向上のために努力してきた科学者の伝統をうけつぎ，科学の発展を妨害するものとたたかい・・・(以下省略)」となっています。会則は 1965 年 12 月にできましたから、すでに 56 年余りが過ぎました。JSA は、日本学術会議が出してきた「軍事研究には加担しない」という声明を尊重し、軍産学共同研究に反対してきました。菅義偉政権による学術会議の会員任命拒否(2020 年 9 月)は、「科学の発展を妨害する」ものであり、JSA は抗議声明を出すなどして継続的にたたかってきました。日頃、私は「戦争は絶対悪だ」と考え、権力者たちが戦争を起こしたり応戦したりすることのないように、私たちは「非戦・反戦」の運動に取り組むべきだと思っています。そのたたかいの基本として「非武装・非暴力」を掲げ、世界の市民や科学者と連帯することこそが JSA として具体的な課題であろうと思っております。以上の意見をまとめて「入会のしおり」の原稿を用意するつもりです。ご清聴をありがとうございました。
議長：朝から長時間ご苦労さまでした。これで終わります。
16：20 終了
＜チャットの主要な意見を追記＞

亀山統一 ： 熊本支部は臨時事務局を置いているので、大会代議員はでない(事務局長が幹事なので)し、支部活動報告書は地区からの報告として事務局になされる形になります。また、財政困難となった支部に予備費を支出するとすると、困難支部をどう認定するのかが問題になるかと思います。困難支部の項目についてこうした点からの整理をしないと、議論が混乱すると思います。
三木敦朗（社会的活動部） ： nature の記事はこちらだと思います。
https://www.nature.com/articles/d41586-022-01935-1
小野 一 ： せっかく支部ウェブサイトの話が出たのだから、逆に「うまくいかなかった」支部の経験も出して頂ければ、検討課題かみえてくるのではないかと思います
竹中 寛治 ： 東北大学職員組合のホームページです。この中の「新着情報」先月６月末の団体交渉の速報（詳細）が掲載されています。 https://tohokudai-kumiai.org/#new
三木敦朗（社会的活動部） ： 私の地方の新聞でも「紙を基本とし、電子版も売る」という方法をとりはじめました。JJS も、紙の冊子を配布・販売するのを基本としながら、PDF での配信を希望する会員には PDF で送り（もちろん再配布は禁止するという約束で)、そのぶんで浮く冊子は支部に寄付いただいて宣伝用とする、というのではいかがでしょうか。
増山@山口支部 ： 山口支部では会誌に支部のチラシなどを同封して、組合に業務委託費(年間 12 万円)を払って配付してもらっています。
亀山統一 ： 私も紙媒体を維持しつつ、早期に web 上で公開するのがよいだろうと思いますが、それだと本の泉社との契約が変わってくると思います。また、事務局職員の負担も増えると思います。そのコストを調べてそれに応じた予算を作っていくことが必要になると思います。お金の面で言うと、メールだけで連絡が取れない（メールに返事しない、そもそも JSA からのメールを読まない）会員が多いと、郵送を維持しないと会員に情報が伝わりませんが、その場合、会誌同封なら送料は 63 円ですが、定形/定形外郵便で送れば送料は跳ね上がります。そういう意義、労力、費用を総合した議論がどこかで必要だと思います。
三木敦朗（社会的活動部） ：web での公開は、交渉次第で可能だと思います。出版社が、現実にどのくらいのあいだ販売したいかをヒアリングする必要がありますね。
三木敦朗（社会的活動部） ： そもそも県単位で会誌発送・会費徴収する「支部」という単位は死守すべきものなのでしょうか。発生する「困難支部」をそのつど地区で改善していくのではモグラ叩きです。必要とするところにだけ支部があればよいようにも思います。支部という仕組みをコストをかけて維持する、JSA にとっての意義とは何なのでしょうか。
小野 一 ： 「支部」概念が変わりつつあると思います。所属支部とは離れたところに居住しているのは私のケースですが、福井支部では他にも東京在住の支部員がいます。もしかしてこれ、福井だけの話ですか。
増澤誠一 ： 小野さんへ、私は居住は千葉県ですが、東京支部に所属です。東京支部にはそうした会員が多いと聞いています。
増山@山口支部 ： 山口では山口大学の現職教員 10 数名以外は点在会員です。若い会員は任期や移動があり、支部所属では活動が難しくても、全国事務局直属の「点在会員」という形が有効なことも有るのではないでしょうか。
亀山統一 ： 三木さん、JSA の場合それを変えるのが一番難しいと思います。でも、現実に支部の維持が大変になっているなかで、それならば JSA はどうやって存続していくの、どういう理由で JSA への入会を人に勧めるの？ という問いを出し合って、時間をかけて JSA のあり方について合意形成していくことが、今必要なことだと思っています。

==========

行事案内

☆10 月 20 日（木）①14:30～、②19:00～ **映画「わが青春つきるとも－伊藤千代子の生涯」（桂壮三郎監督）上映会** 会場：茅ヶ崎市民文化会館小ホール（JR 茅ケ崎駅北口徒歩 10 分） 前売り：一般・

シニア 1000 円、当日 1200 円、大学生 500 円、障碍者・高校生以下無料　プレイガイド：茅ヶ崎市民文化会館、長谷川書店　主催：実行委員会　連絡先：090-6160-3157（早坂）、090-5763-1536（一宮）

☆10 月 20 日（木）19:00～21:00　**オンライン（zoom）学習会　核燃サイクル阻止 1 万人訴訟原告団オンライン学習会「高レベル廃液冷却機能喪失事故」について**　進行：澤井正子（核燃サイクル阻止 1 万人訴訟原告団）　お話：伊東良徳弁護士（核燃サイクル阻止 1 万人訴訟弁護団）　参加希望の方は、下記 zoom アドレスから接続してください（接続は 18:50 から可能です、先着 100 名）　Zoom ミーティングに参加する　https://us02web.zoom.us/j/87489661588?pwd=bkV3ZFYrTVBxQS90MUxnV0V0RkI3UT09 ミーティング ID: 874 8966 1588　パスコード: 672957　主催・問合せ：核燃サイクル阻止 1 万人訴訟原告団（TEL/FAX：0178-47-2321、E-mail：1man-genkoku@mwe.biglobe.ne.jp、HP　https://1mangenkoku.org/

☆10 月 21 日（金）11:00～11:30（雨天中止）　**無法な武力併合は絶対に許せません！ロシアはウクライナから即時無条件撤退せよ　核兵器による威嚇を止めよ　10・7 ロシア大使館前行動**　よびかけ：日本平和委員会、日本 AALA 連帯委員会　場所：ロシア大使館前（大使館近くの飯倉交差点）　問合先：日本平和委員会（03-3451-6377）、日本 AALA 連帯委員会（03-6453-7297）

☆10 月 21 日（金）18:00～　**前参議院議員・有田芳生さん講演会「統一教会と改憲策動」**　場所：浦和コミュニティセンター15 集会室(浦和東口パルコ 9 階)　主催:九条の会･さいたま　連絡先:080-1245－3553（斎藤）、nami-san@hkg.odn.ne.jp(藤浪)

☆10 月 22 日（土）10:00～11:45　**港南台９条の会例会「宗教と憲法」**　お話：秋吉隆雄さん（牧師）　会場:港南台地区センター和室(JR 根岸線港南台駅徒歩 10 分)　問合せ:成田知子さん(090-8502-8580)

☆10 月 22 日（土）13:30～15:30　**非正規シングル女性の現状とこれから**　会場：川崎市男女共同参画センター2 階第 1・2 研修室（JR 武蔵溝ノ口駅徒歩 10 分）　講師：飯島裕子（ノンフィクションライター）　トーク＆トーク　先着 20 人　要申込み（hymico@me.com）　保育あり（要予約）　主催：川崎の男女共同社会をすすめる会など　問合せ：090-1843-4689（藤井さん）

☆10 月 22 日（土）14:30～　**「島を守る　第１章　波紋」大和上映会　監督のトーク＆ミニシンポ**　馬毛島に自衛隊の戦闘機の訓練基地を建設する計画が進められていることはご存知だと思います。馬毛島は希少種のマゲシカなど多様な生物が生息し、海洋資源も豊富で自然あふれる島です。この美しい島を残そうと住民のみなさんは基地建設に反対していますが防衛省は強引に進めようとしています。「島を守る　第１章　波紋」は屋久島在住の川村貴志さん、未菜さんが、自然の美しさ、島を翻弄する国の政策とそれに抵抗する市民の姿などを記録したドキュメンタリーです。上映後、川村貴志さん、未菜さんからお話を伺います。また、横浜市内の基地の状況や南西諸島の自衛隊基地の状況も報告します。ぜひ、来てください。会場：大和渋谷学習センター2 階多目的ホール（小田急線高座渋谷駅西口すぐ）　無料　連絡先：090-9143-9871（矢野）

☆10月23日(日)13:00～　**ピースフェスティバル：10.23軍港クルーズ　横須賀基地一周**　13時三笠公園出港（集合15分前）　乗船料500円　解説付き　予約制　予約:メールm_milai@ybb.ne.jpまたはFax.046-823-6031へ。主催:ピースフェスティバル2022実行委員会(全造船浦賀分会内、046-841-0346)

☆10 月 23 日（日）から毎月 1 回、第 4 日曜開催　13:15～16:20　**講座「マルクス/エンゲルスの『ドイツ・イデオロギー』を読む」（全 12 回）**　会場：神奈川公会堂（東神奈川駅徒歩 4 分）　講師：渡辺憲正（関東学院大学名誉教授）　受講料 30000 円　主催：マルクス/エンゲルス原典講読会　問合せ・申込み： Shizue86@pg8.so-net.ne.jp、 045-845-6679

☆10月23日（日）13:30～　**学校に自由と人権を！10.23集会**　会場：日比谷図書館文化館地下ホール（日比谷公園内）　講演：小澤隆一さん（東京慈恵会医科大学教授、憲法学）「憲法9条の危機に抗して」　ライブ：岡大介さん　カンカラを鳴らして政治を「演歌」する　特別報告：東京「君が代」裁判五次訴訟原告団、ILO/ユネスコの勧告について　主催：「日の丸・君が代」不当処分撤回を求める被処分者の会ほか　連絡先：090-5327-8218（近藤）

☆10月23日（日）13:30～　**「島を守る　第1章　波紋」横浜上映会　監督のトーク＆ミニシンポ**　馬毛島に自衛隊の戦闘機の訓練基地を建設する計画が進められていることはご存知だと思います。馬毛島は希少種のマゲシカなど多様な生物が生息し、海洋資源も豊富で自然あふれる島です。この美しい島を残そうと住民のみなさんは基地建設に反対していますが防衛省は強引に進めようとしています。「島を守る　第1章　波紋」は屋久島在住の川村貴志さん、未菜さんが、自然の美しさ、島を翻弄する国の政策とそれに抵抗する市民の姿などを記録したドキュメンタリーです。上映後、川村貴志さん、未菜さんからお話を伺います。また、横浜市内の基地の状況や南西諸島の自衛隊基地の状況も報告します。ぜひ、来てください。会場：かながわ労働プラザ第3会議室（JR石川町駅下車3分）　無料　連絡先：090-6138-9593（中森）

☆10月23日（日）17:00～　**『緊急オンライン講演会「辺野古訴訟」裁判の争点はここだ！』～設計変更申請「不承認」をめぐって～**　講師：加藤 裕 さん（弁護士／辺野古関連訴訟弁護団）　参加費1000円(振込10/20まで)　(FAXを送る取り組みへの協力もお願いします)　呼びかけ：「止めよう！辺野

古埋め立て」国会包囲実行委員会　協力：戦争させない！９条壊すな！総がかり行動実行委員会
☆10 月 24 日（月）18:30～　**市民連合講演会**　会場：連合会館　講師：半田滋　テーマ：防衛予算の大幅増、敵基地攻撃能力保有など憲法破壊の軍事大国化を許さない（仮題）　主催：市民連合
☆10 月 25 日（金）17:00～19:00　**『ヨコハマ市民自治を考える会』の定例会**　かながわ県民センター 711 号室、市民自治に関心のある方は是非お越し下さい。E メール kura335200@star.ocn.ne.jp　参加費 300 円
☆10 月 26 日（水）18:00～　**憲法改悪を許さない 総がかり行動 署名街頭宣伝**　場所：新宿駅西口 小田急百貨店前　共催：戦争させない・９条壊すな！総がかり行動実行委員会／９条改憲 NO！全国市民アクション
☆10 月 27 日（木）14:15～16:15　**ひるまのうたごえ「秋の大うたう会」**　会場：藤沢市民会館第 1 展示ホール（JR 藤沢駅徒歩 10 分）　会費：500 円　主催：藤沢合唱団　問合せ：070-1315-3501（新井さん）
☆10 月 27 日（木）15:00～18:00　**2022 国連軍縮週間特別企画　非核平和の世界とアジアのために－日本が取るべき選択は？**　会場:平和と労働センター・全労連会館 2 階ホール　参加費 500 円　定員 120 人　テーマ１：半田滋「岸田政権の大軍拡のねらいと危険」、テーマ２：大久保賢一「日本の安全は憲法 9 条と核兵器禁止条約で」、テーマ 3：土田弥生「禁止条約に参加する日本政府に変えるために」主催：原水爆禁止日本協議会（03-5842-6031）
☆10 月 28 日（金）12:00～14:30　**大学・研究開発法人雇い止め STOP　院内集会**　会場：参議院議員会館 B104 会議室 +Zoom　内容：大学・研究機関の現場報告、シンポジウム～大学・研究機関の「雇止め」を問う～　申込み：次から事前にご登録ください。メールアドレスを登録頂くと ZOOM の URL などが届きます。https://onl.sc/eeQgGnA　主催：全国労働組合総連合（全労連）／労働法制中央連絡会、理研の非正規雇用問題を解決するネットワーク、研究職の雇用安定を求める研究者有志　連絡先：〒113-8462 東京都文京区湯島 2-4-4 4 階 03-5842-5611 全労連　溝口・霜田
☆10 月 28 日（金）18:30～20:00　**学習会「検証！消費税は社会保障に使われているか？」**　会場：県保険医協会（横浜駅徒歩 5 分）　講師：湖東京至（税理士）　主催：消費税を含めた税のあり方を考えるネットワーク　問合せ：045-313-2111（県保険医協会内）
☆10月28日（木）～29日（金）　**自然エネルギー連続講座視察見学会**　自然エネ推進条例やおひさまファンドなどで有名な長野県飯田市の自然エネ・再エネの取り組みの視察と懇談参加・資料代：800円　交通費と宿泊代(1泊2食)21,500円。27日・28日の昼食代は別途実費　27日は午前8時に堺筋本町の大阪民医連前にお集まりいただき、貸切バスにて飯田市に向かいます。28日は午後6時ごろ同所に帰る予定です。募集人数は、マイクバスの定員の半分の14名とします(申し込み先着順)。なお、コロナの感染状況によっては中止もあり得ることを予めご了承ください(参加費は返金します)　申込み：5月15日までに、メールまたはFaxでの申し込みの項目　名前、電話番号、住所、パソコンのメールアドレス、参加講座(○印を)　視察・見学会　参加する(参加の場合は○印を) 第1次分として5月15日までにメールかFax、郵便などで事務局まで申し込み下さい。申込みいただいた方には、事務局より請求書と郵便振替用紙をお送りします。郵便振替かゆうちょ銀行への振り込みでお願いします。申込先・主催:原発ゼロの会・エネルギー部会(〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19　内本町松屋ビル10 370号、電話06-6949-8120　FAX06-6949-8121 メールnakamura@oskougai.com)
☆10 月 29 日（土）10:00～12:00　**憲法カフェ「ウクライナ取材からみえた憲法 9 条」**　会場：ウェルシティ大学習室（JR 横須賀駅徒歩 5 分）　講師：志葉玲（ジャーナリスト）　参加費 500 円　主催：横須賀市民九条の会　問合せ：090-8055-6443（巴さん）
☆10月29日（土）10:00～15:30　**第50回神奈川自治体学校　楽しく学ぶ地方財政講座　「まちの財政を身近なものに」**　会場：横浜市健康福祉総合センター8階会議室（桜木町駅徒歩3分）　参加費2000円（学生・院生1000円）　申込み：10月21日までに　Fax045-252-3948、メール:kanagawajitiken@siju.or.jpで。
☆10 月 29 日（土）13:30～17:00 **日本の学術の「再生」をめざす学術講演会　権力による学問への攻撃を許さず、市民とともに学術を発展させるために**　会場：同志社大学新町キャンパス臨光館 R301 教室（今出川通新町上がる、地下鉄今出川駅徒歩 10 分）　講演者・報告テーマ：永田和宏氏（JT 生命誌研究館館長・歌人、京都大学名誉教授／京都産業大学名誉教授）「学問における批判性 - 学術会議会員任命拒否問題」、池内了氏（名古屋大学名誉教授）「加速する軍学共同路線－安全保障に取り込まれる『学』－」、伊田久美子氏（大阪府立大学名誉教授／日本学術会議連携会員）「政治家による学術研究の名誉毀損：フェミ科研費裁判の争点」、吉中丈志氏（公益社団法人京都保健会理事長／京都大学医学部臨床教授）「七三一部隊と京都大学 - 学問の戦争への動員を許さないために - 」　主催：日本科学者会議京都支部、共催（京滋私大教連、ほか要請中）　連絡先：竹中（tak.kanji@gmail.com）、細川（hosakawa@biz.ryukoku.ac.jp）
☆10月30日（日）13:30～17:00　**第57回教科書を考えるシンポジウム　『教育と愛国』から教科書を考**

えるー記述内容への介入、国連への問題な報告　会場：エデュカス東京5階B会議室（地下鉄有楽町線麹町駅徒歩2分、zoom参加も併用）　講演：映画『教育と愛国』で言いたかったこと　斉加尚代さん（毎日放送ディレクター）　報告：国連に事実を偽る日本政府報告　吉田典裕さん（国際人権活動日本委員会）　資料代800円　　申込み：10月26日までに会場参加かzoom参加か、名前、メールアドレスと電話番号、住所を、メールで子どもと教科書全国ネット21（ukyokasho21@a.email.ne.jp）にメールください。zoom参加の方は資料代を次に送金ください。郵便振替口座：00160-5-32242 子どもと教科書全国ネット21　連絡先：子どもと教科書全国ネット21（03-3265-7606）

☆10 月 30 日（日）14:00～　**「自衛官募集名簿提出問題を考える会」（仮）の発足と学習会**　会場：相模原市立総合学習センター2 階セミナールーム（JR 相模原駅徒歩 20 分）　講演：中野直樹（弁護士）「名簿提出の法的根拠はあるの？　プライバシー権は守られるの？」　主催：自衛官募集名簿提出問題を考える会（仮）準備会　問合せ:090-7724-8172（菅沼さん）

☆10 月 31 日（月）①14:00～、②18:00～　**映画「わが青春つきるともー伊藤千代子の生涯」（桂壮三郎監督）上映会**　会場：多摩市民館大ホール（小田急線向ヶ丘遊園駅徒歩 5 分）　料金 1000 円、小学生～大学生、障碍者 500 円　主催：実行委員会　問合せ：090-6706-5147（塩田さん）

☆11月2日（水）18:30～　**2022年秋の憲法学集会「9条の危機～いまこそ奮い立とう」生かそう憲法！今こそ９条を！世田谷の会（東京都世田谷区）**　会場：梅が丘パークホール（小田急梅枝が丘駅下車徒歩１分）　講師：伊藤千尋さん（九条の会世話人）　入場無料
主催：生かそう憲法！今こそ９条を！世田谷の会　連絡先：03-3428-1234（世田谷地区労）

☆11 月 3 日（木・祝）**第 10 回人権シンポ in かながわ**　会場および zoom で開催　会場：神奈川県弁護士会館　参加無料　要申込　9:30～12:30　映画「BOX 袴田事件　命とは」(監督：高橋伴明）上映　講演：袴田事件のいま～なぜ、再審裁判は始まらないのか　講師：戸舘圭之さん（弁護士、袴田事件再審請求弁護団）　会館 4・5 階（定員 100 名）、13:00～　人権賞贈呈式　会館 5 階および zoom で開催、10:30～12:00　講演：知られざる日本の社会保障予算の現実～貧困解決の肝を医療の現場から考える」講師：本田宏さん（NPO 法人医療制度研究会副理事長）　zoom のみ、13:00～16:30　映画「ワタシタチハニンゲンダ！」上映会と対談～外国人差別と排除の歴史から現代の課題を考える～　出演：髙賛侑さん（監督）、鄭栄桓さん（明治学院大学教授）、駒井知会さん（弁護士）　定員 300 名先着順 zoom のみ、14:00～16:00　「成年年齢引き下げで何が変わるの？新成人との Q&A～弁護士による講演と新成人参加型パネルディスカッション」　基調講演：岡本将太さん（弁護士）　パネリスト：新成人の方々・藤田香織さん（弁護士）、八幡康祐さん（弁護士）　会館 4 階および zoom 開催、14:30～16:30 憲法問題シンポジウム　沖縄戦、そして現在の沖縄　#沖縄復帰 50 年　オンラインツアー「沖縄戦と一中学徒資料展示室」　ガイド：太田光さん（琉球大学院生）、お話「辺野古新基地建設、沖縄が直面する様々な問題」　講師：北上田源さん（琉球大学教育学部准教授）　zoom のみの開催　主催：神奈川県弁護士会　問合せ：045-211-7715　申込みは先着順　申込み：下記の url からアクセス願います。https://www.kanaben.or.jo/news/evevt/2022/sympo2022.html

☆11 月 3 日（木・祝）13:00～　**浜高教「父母と教職員のつどい」**　会場：横浜市従会館 4 階ホール（桜木町駅徒歩 10 分）　映画「教育と愛国」上映と斉加尚代監督のお話　無料先着入場制限あり　要事前申込み　主催：横浜市高等学校教職員組合　問合せ:hkk@jt3.so-net.ne.jp

☆11 月 3 日(木・祝)13:30～15:40　**2022 憲法を考える 11.3 県民集会「改憲発議をさせない私たちの憲法論議」**　会場：かながわ県民センターホール(横浜駅西口徒歩 5 分）　講演：纐纈厚ん(明治大学特任教授)「新たな段階を迎えた護憲運動の現在とこれから～軍事国家日本への道を阻むために～」、神奈川からの報告：*新倉*裕史さん（*非核市民宣言運動*ヨコスカ）　　資料代：500 円　申込み：以下の url から申込みください。https://docs.google.com/forms/d/1yZubt6zDuwXQp1llTnjs_RC2A3hyPfHRyTdRNU8NtBE/edit　（先着 130 人）　主催：かながわ憲法フォーラム　連絡先：鈴木・峰尾（045-231-2479）

☆11 月3日（祝・木）13:30～　**比与宇弾薬庫フィールドワーク**　集合：13時30分、JR田浦駅北口　内容：１．２か所から基地見学、２．田浦コミュニティセンターで意見交換　主催：横須賀平和委員会　連絡先：090-1837-5347（田中隆雄）

☆11 月 3 日（木・休）14:00～　**武力で平和はつくれない　つなごう憲法をいかす未来へ「11・3 憲法大行動」**　場所：国会議事堂周辺　主催：戦争させない・９条壊すな！総がかり行動実行委員会／９条改憲 NO！全国市民アクション

☆11 月 5 日（土）①10:00～12:00、②14:00～16:00　**上映会「ブータン山の教室」**　会場：港北公会堂ホール（東横線大倉山駅徒歩 7 分）　大人 999 円、子ども・障碍者 500 円　主催：港北区教育懇談会　申込み：080-6559-0183（守屋さん）

☆11月5日（土）13:00　小田急江ノ島線高座渋谷駅西口集合　**第26回かながわ反戦ツアー「厚木基地の今を巡る」**　徒歩で「厚木基地の南部」を見学し厚木基地の実態を観察する。学習センターまで徒歩で移動・高座渋谷学習センターで、基地・第5次訴訟の説明　資料代；1000円：主催かながわ平和憲

法を守る会（連絡先：瀬川・090-1105-6980）

☆11月6日（日）14:00～16:30　**軍学共同反対連絡会主催　オンラインシンポジウム「政治に翻弄される学術～大軍拡と軍学共同の深化」**　内容は次の通りです（講演タイトルは仮題）第一部　講演：海渡雄一さん（弁護士、デジタル監視社会に反対する法律家ネットワーク）　「経済安保法の行方」、井原聡さん（東北大学名誉教授）「軍事研究の新たな段階」、吉田千亜さん（フリーライター）「経済安保法と福島イノベーション・コースト構想」、光本滋さん（北海道大学教育学研究院准教授）「国際卓越研究大学と軍学共同」　第二部　パネルディスカッション：司会　浜田盛久さん（海洋研究開発機構研究員）、パネリスト　上記4名　終わりの挨拶　池内了さん（名古屋大学名誉教授）　問合せ・参加希望：軍学共同反対連絡会事務局（http://no-military-research.jp、pokojpeace@gmail.com）

☆11月12日（土）9:30～13日（日）16:00　**第20回「戦争のない世界のための国際社会と東アジアの役割」フォーラム・東京会議**　ハイブリッド開催　会場：全国教育文化会館（エデュカス東京）7階　11日9:30～　開会挨拶、基調報告　第1セッション「揺れる国際秩序の中での東アジア平和の道を探る」、第2セッション「市民社会をめぐる課題と教育」　特別報告（フォーラムの20年を振り返って）　レセプション　18:30～　12日9:30～　第3セッション「政治・外交問題になった歴史論争」、第4セッション「歴史認識の争点をめぐる授業実践」　閉会式　16:00修了　参加費1日1000円、2日間2000円　申込み：https://forms.gle/j8erYrPvmhu2xvj6A　連絡先：子どもと教科書全国ネット（03-3265-7606）

☆11月12日(土)13:00～16:00　**全国首長九条の会・第3回総会**　会場：　文京区民センター　2－A会議室　総会議事等はZoomとの併用　連絡先：九条の会気付（03-3221-5075）

☆11月12日（土）14:00～16:00　**栄区九条の会・学習会「宗教、平和、憲法　一人の牧師の立場から」**　講師：秋吉隆雄（牧師、港南台9条の会世話人）　会場：あーすぷらざ1階研修室A（本郷台駅徒歩3分）　資料代300円　先着36名　主催：栄区九条の会　問合せ：045-891-4939（日隈さん）

☆11月13日（日）9:30～　**第50回神奈川自治体学校　危機の時代の地域と自治体～憲法をくらしにいかす**　会場：横浜市健康福祉総合センター4階ホール・9階会議室など（桜木町駅徒歩3分）　参加費1000円（分科会のみは700円）　午前：全体会（4階ホール）記念講演：山根徹也氏（横浜市大教授）「緊急事態条項と地方自治～ナチス・ドイツの教訓」　特別報告：小山田大和氏（合同会社小田原かなごてファーム社長）「足元から始める地球温暖化対策」　午後：分科会（4階ホール、9階会議室、横浜市従会館3階会議室）　①民営化、公務・公共性、②環境・まちづくり、③子育て・教育、④平和・基地、⑤暮らしと地域経済、⑥社会保障、⑦女性行政　主催：実行委員会　事務局：神奈川自治体問題研究所（045-242-3948）　申込み：氏名、所属、参加区分（全体会と分科会のテーマ、全体会のみ、分科会のテーマのみ）　Fax045-252-3948、メール:kanagawajitiken@siju.or.jp

☆11月13日（日）13:30～15:30　**第10回震災復興支援コンサートinふじさわ**　会場：藤沢市民会館第一展示集会ホール（藤沢駅徒歩10分）　500円、中学生以下無料　主催：実行委員会　問合せ：080-3018-8191（荒井さん）

☆11月15日(火)～20日（日）10:00～19:00（最終日は15時まで）　**伊藤孝司写真展　平壌の人びと横浜展**　会場：かながわ県民センター1階展示室　入場無料　ギャラリートーク：各日15時より、作者が写真解説をします　主催：実行委員会（090-8818-1431、高梨）

☆11月15日（火）14:00～15:00　**「日本の科学者」「支部通信」発送作業と支部幹事会**　会場：かながわ総研会議室（横浜市中区不老町2-8-8 不二ビル6階604号室、045-662-9839）　交通：JR関内駅南口または地下鉄伊勢佐木長者町徒歩5分、旧横浜文化体育館北側　連絡先：飯岡ひろし（携帯電話080-1987-0994、E-mail：iioka408(at)gmail.com）

☆11月16日（水）18:30～　**自然エネルギー連続講座第4講**　講師：鈴木靖文さん(有限会社ひのでやエコライフ研究所代表取締役)　エネルギー政策と省エネ・エコライフ　参加・資料代：1回800円(学生:無料)　4回連続ご参加の方は2,800円　講演レジュメ：Zoom参加者には事前にデータで講演レジュメをお送りします。紙ベースのレジュメをご希望の方は、郵送費の実費等として1回につき150円のご負担をお願いします。申込み：5月15日までに、メールまたはFaxでの申し込みの項目　名前、電話番号、住所、パソコンのメールアドレス、参加講座(○印を)　第3講　参加形態(会場　Zoom)　紙ベースレジュメ(希望　不要)　第4次分として5月15日までにメールかFax、郵便などで事務局まで申し込み下さい。申込みいただいた方には、事務局より請求書と郵便振替用紙をお送りします。郵便振替かゆうちょ銀行への振り込みでお願いします。申込先・主催：原発ゼロの会・エネルギー部会（〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19　内本町松屋ビル10 370号、電話06-6949-8120　FAX06-6949-8121 メール nakamura@oskougai.com）

☆11月18日（金）16:00～17:30　**Zoom セミナー 経済安全保障推進法って何？ 市民生活に どう関係してくるの？**　講師：海渡雄一（弁護士）、天笠啓祐（ジャーナリスト）、司会：小寺隆幸（軍学共同反対連絡会事務局長）　事前申込み：参加希望者は事前に下記メールあてに必要事項明記の上、11月15日までに申し込 みください。必要事項：名前、職業、メールアドレス　申込み先：E-mail

jreikochan@yahoo.co.jp またはこちらから → https://forms.gle/R5ximFrQaZeZ2zZZ8 参加費：無料（寄付歓迎）郵便局からの送金の場合：口座番号 10290-70860881、他行からの送金の場合：ゆうちょ銀行 028 店（ゼロニハチ） 普通 7086088 口座名義 神野玲子 当日の詳細案内：申込みされた方には11月15日ころにzoomのURL等を案内します。 主催：ゲノム問題検討会議 https://www.gnomeke06.net/ 問い合わせ：神野玲子 E-mail jreikochan@yahoo.co.jp、携帯番号 090-2669-0413

☆11月19日(土)～12月11日(日) **日本科学者会議第24回総合学術研究集会 in 大阪　新型コロナウィルス・気候危機下の科学と社会ー脱炭素・脱原発・脱貧困を求めてー** 会場:大阪大学とオンライン 11月19日 全体会1:下田正(大阪大学名誉教授) 演題「戦争と平和ー核兵器の開発の歴史を中心に」、全体会2:中川敬介(岐阜大学応用生物科学部准教授) 演題「コロナウイルスと One Health」 12月11日 全体会3:浅岡美恵(京都弁護士) 演題「気候危機と人権」 11月19日から12月11日の土日の午前午後に、34分科会 主催：JSA 24総学実行委員会 問合せ：24sogaku@jsa.gr.jp https://jsa.gr.jp 詳細：https://jsa.gr.jp/05event/sougaku.htm

☆11月19日（土）～20日（日）**「市民と野党の共闘」の新たな発展へ　いま学び、語ろう革新懇の役割 地域・職場・青年革新懇全国交流会 in 東京 2022** 参加費1000円（1日のみは500円） 19日 全体会13:30～17:00 会場：砂防会館別館B利根大会議室（永田町駅4番出口徒歩1分） 来賓：広渡清吾さん、大江京子さん 講演：伊藤千尋さん、内田聖子さん、志位和夫さん 20日 分散会・分科会 9:00～12:00 分科会①職場交流会、②青年交流会、シンポジウム「地方政治を共闘で考える」 分散会①～⑧ 会場：砂防会館、全労連会館、エデユカス東京 申込み・問合せは神奈川革新懇か全国革新懇へ（03-6447-4334）

☆11月19日(土)14:00～ **神奈川合唱団演奏会2022「飛行機よ」** 会場：サルビアホール（JR鶴見駅または京急鶴見駅徒歩2分、シークレイン4階） 全席自由席：一般1500円、障碍者・中高生500円、小学生以下無料 プログラム：五つの混成合唱曲 飛行機よ、Triangle(SMAP)、童神（古謝美佐子）、島唄(The Boom)、Human Rights（笠木透）、日本国憲法前文（きたがわてつ） 問合せ・申込み：神奈川合唱団（090-2483-8812、河野）

☆11月20日（日）13:00～ **原子力空母いらない！横須賀集会　原子力空母いらない！オスプレイNO 爆音なくせ、原発ゼロ、戦争法廃止、市民と野党の共闘で政治の流れを変えよう、ロシアはウクライナ侵略をやめよ、母港化に反対する11・20横須賀集会** 会場:横須賀市ヴェルニー公園 規模1000名 デモ行進：横須賀中央駅先のコース 集会場の新型コロナウイルス感染防止対策：ソーシャルディスタンス／検温／消毒／その他 WEB発信の検討 主催・呼びかけ：原子力空母いらない！横須賀集会実行委員会（安保破棄中央実行委員会／安保廃棄神奈川県統一促進会議／原子力空母の横須賀母港阻止三浦半島連絡会）

☆11月20日（日）14:00～16:00 **第88回草の根歯科勉強会　戦後史ー戦争責任から戦後責任ーを考える** 会場：梨の木カフェ（水道橋駅徒歩3分、会場は10名まで） zoom併用 要申込：電話03-5340-9282、yayoiokada@pcsu.mfnet.ne.jp 講師：内海愛子氏（恵泉女学園大学名誉教授） URL、ID、パスコードは後日知らせます。主催：草の根歯科研究会

☆11月23日（水・祝）13:30～14:30 **栄区革新懇総会特別講演 「横須賀火力発電所建設問題と気候危機」** 講師：鈴木陸郎（横須賀火力発電所建設を考える会共同代表） 会場：サカエスタ3階中会議室（本郷台駅徒歩4分） 主催：栄区革新懇 問合せ：090-1258-4710（筒井さん）

☆11月25日（金）～27日（日） **なくそう！日米同盟・米軍基地　2022年日本平和大会** 会場：東京多摩・永山情報教育センター（会場参加とオンライン） 25日午後 横田基地調査交流行動 26日10時～ 開会集会、13時30分～ シンポ、分科会 27日10時～12時 閉会集会

☆11月26日（土）13:30～15:20 **秋の講演会：日本国憲法は未来的 お話：田中優子さん（法政大学名誉教授・前総長）** 会場：全国教育文化会館（エデュカス東京7階ホール） 資料代700円 主催：千代田九条の会 連絡先：03-3291-5477

☆11月30日（日）18:30～ **いま 戦争と憲法に向かい合う** 講演：田中優子さん（法政大学名誉教授）「経験発議と自民党憲法改正草案」、金平茂紀さん（ジャーナリスト）「ウクライナ 憲法 メディア」オープニング：神奈川のうたごえ 会場：神奈川県民ホール大ホール（みなとみらい線日本大通り駅徒歩5分） 入場料1000円、高校生以下無料 呼びかけ人：石黒康仁、伊藤新、岡田尚、後藤仁敏、菅原健一、住谷和典、高橋通廣、高梨晃嘉、長瀬嘉宏、仲築間卓蔵、中森圭子、新倉裕史、福田護、馬鳥敦、水谷正人、森卓爾 主催：11.30 集会実行委員会（実行委員長：岡田尚弁護士） 問合せ：045-651-2431（横浜合同法律事務所 高橋由美弁護士）

☆12月4日（日）13:30～ **日中の新疆ウイグル問題　連続学習会第2弾「新疆ウイグル自治区　民族問題の実際と拝啓」** 講師：大西広氏（慶応義塾大学名誉教授） 会場：かながわ県民センターホール（横浜駅西口徒歩5分） 参加費500円 問合せ：045-663-0041 主催：日本中国友好協会神奈川連合会

☆12 月 4 日（日）14:30～16:30　**学習会「（仮題）岸田内閣が、世論と憲法とを無視して国葬を強行実施したことに対する検証」**　講師：永山茂樹東海大教授　会場：鎌倉生涯学習センター第 5 会議室　資料代 500 円の予定　主催：湘南護憲市民の会・鎌倉　連絡先：小堀 080-5035-7168

☆12 月 6 日（火）14:00～　**安保法制違憲かながわ訴訟**　東京高裁 101 号法廷　第一回審理　終了後、報告集会の予定

☆12 月 10 日（土）13:30～16:00　**第 29 回アジア・フォーラム横浜証言集会　中国人パイロット（102 歳）語る**　証言：何 永道さん（リモート）　講演：高嶋伸欣さん（琉球大学名誉教授）　通訳：林 少彬さん　会場：かながわ県民センターホール（横浜駅西口徒歩 5 分）　資料代 1000 円（学生以下無料）　問合せ：080-4536-3505（吉池）

☆12月10日（土）13:30～16:30　**自然エネルギー連続講座シンポジウム**　内容：報告「各自治体の取り組みの現状と課題」－自治体アンケートの集計結果－、シンポジウム「自然エネ100％の大阪を目ざして」、大阪の電力需要と自然エネ・再エネ100％を目指して、大阪での自然エネ・再エネを飛躍させるために、大阪経済の活性化と自然エネ・再エネ、大阪府・市政のエネルギー施策の実態と問題点　資料代：500円(学生:無料)　4回連続ご参加の方は2,800円　講演レジュメ：Zoom参加者には事前にデータで講演レジュメをお送りします。紙ベースのレジュメをご希望の方は、郵送費の実費等として1回につき150円のご負担をお願いします。申込み：5月15日までに、メールまたはFaxでの申し込みの項目　名前、電話番号、住所、パソコンのメールアドレス、参加講座(〇印を)　シンポジウム　参加形態(会場　Zoom)　第1次分として5月15日までにメールかFax、郵便などで事務局まで申し込み下さい。申込みいただいた方には、事務局より請求書と郵便振替用紙をお送りします。郵便振替かゆうちょ銀行への振り込みでお願いします。申込先・主催：原発ゼロの会・エネルギー部会（〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19　内本町松屋ビル10 370号、電話06-6949-8120　FAX06-6949-8121 メール nakamura@oskougai.com）

☆12月18日（日）14:00～16:30　**九条科学者の会2022年12月講演会　立憲主義国家の破壊と再生－ウクライナ侵略と安倍国葬を手がかりに**　Zoomによるオンライン開催　要申込：氏名、連絡先（電話番号）を記して、m2-office@9-jo-kagaku.jpにメールし、ログイン情報を受け取ってください。講演1：日本国憲法平和主義の今日的意義　奥野恒久さん（龍谷大学政策学部教授）、講演2：歴史のなかの「安倍国葬」問題　宮間純一さん（中央大学文学部教授）　主催：九条科学者の会（http://www.9-jo-kagaku.jp、m2-office@9-jo-kagaku.jp、03-3811-8320）

☆12月18日（日）14:00～16:00　**草の根歯科勉強会　死別体験者の「分かち合い」とは**　会場：梨の木カフェ（水道橋駅徒歩3分、会場は10名まで）　要申込：電話03-5340-9282、yayoiokada@pcsu.mfnet.ne.jp　講師：みなと和夫氏（ちばグリーフサポート代表）　主催：草の根歯科研究会

☆12月24日（土）　13:30 ～16:30 **Zoom 市民フォーラム 多数の患者の全ゲノム解析推進とは ―差別生まぬようにするには―**　講師 ：松原洋一先生（国立成育医療研究センター理事、東北大学名誉教授）、横野恵先生（早稲田大学社会科学部 准教授）、武藤香織先生（東京大学医科学研究所教授）　司会：島薗進先生（大正大学客員教授、東京大学名誉教授）　参加方法：事前予約必須（予約受付期間は即日から12月21日まで）　予約方法：セミナー名「 多数の患者の全ゲノム解析推進とは 」（必須）、名前（必須）、 連絡先（E-mail 必須）を明記の上、下記 E-mail 先へ申込みください。 E-mail：jreikochan@yahoo.co.jp 神野玲子 またはこちらから → https://forms.gle/5xChmXuZCnn4CNtU6 E-mail アドレスを誤ると参加案内が送れませんので注意してください 参加費：1000 円 12月21日までに下記に振込みください。郵便局からの送金の場合 口座番号 10290-70860881、 他行からの送金の場合 ゆうちょ銀行 028 店（セロニハチ） 普通 7086088 口座名義 神野玲子 案内詳細：振込確認後、案内および Zoom URL を12月21日頃メールにて送ります。 主催 ： ゲノム問題検討会議 https://www.gnomeke06.net/

☆2023年1月15日（日）14:00～16:00　**第89回草の根歯科勉強会　今こそ人類人主義を！～国際主義を越えてエスペラントの内在思想を深めよう**　会場：梨の木カフェ（水道橋駅徒歩3分、会場は10名まで）zoomあり　要申込：電話03-5340-9282、yayoiokada@pcsu.mfnet.ne.jp　講師：大類善啓氏（方正友好交流の会）　主催：草の根歯科研究会

次号の原稿の募集：近況、論説、報告、旅行記、論評、自著紹介、書評、その他、原稿をメールまたはファックスでお寄せください。毎月 10 日ごろの締め切りです。
送り先：後藤仁敏（E-mail：goto(at)kd5.so-net.ne.jp、Fax: 045-894-1052）